

## 「4月8日」

大本山總持寺布教教化部参禅室長 花和浩明

4月8日は、お釈迦さまのご生誕日です。日本中のお寺で、美しい花御堂の真ん中に誕生仏をお祀りし、皆が甘茶を灌いでお祝いたします。

仏典によると、お釈迦さまは、今のネパールに位置するルンビニ園でお生まれになられました。花々が咲き誇る中、お生まれになられたばかりのお釈迦さまは七歩あゆまれ、右手で天、左手で大地を指さし、「天上天下唯我独尊（てんじょうてんげゆいがどくそん）」とお唱えになられたと伝えられます。その時のお姿が、誕生仏の原型となっているのです。

また、甘茶を上から灌ぐ理由については、お釈迦さまのご生誕を大いに喜んだ龍王が、産湯の代わりに甘露の法雨を降らせたという伝説に基づきます。

いずれにせよ、4月8日は花祭りとも称され、仏教を信仰する人々が皆で心から喜びあえる、明るく楽しい仏教行持の日です。

私の自坊でも、本堂の正面の屋根の下に小さな花御堂をしつらえ、誕生仏をお祀りします。前日に、境内に咲く春の花を籠いっぱい摘んで、御堂の屋根に貼り付けて準備をします。いろんな形や色の花々を重ね合わせて、できるだけ華やかに見えるように工夫いたします。

当日の朝に、甘茶蔓を煮出してちょうどいい甘さにし、それを桶に満たします。その中心に、古くから寺に伝わる小さなかわいい誕生仏をお祀りします。

子供のころの遠い記憶では、近くのお年寄りの方々が、よくお孫さんたちを連れてお参りにきていた思い出があります。

ただ最近では、そのような光景は、ほとんど見られなくなりました。

私が勤めている大本山總持寺では、4月8日になると本山関連の幼稚園、保育園の子供たちが、先生に連れられてたくさんお参りにきます。皆が喜んで、かわいいお釈迦さまに一生懸命甘茶を灌いでいる姿を見ると、思わず顔も心もほころんでしまいます。

「三つ子の魂百まで」という諺がありますが、幼い心に宿った信仰の心こそ、その子の一生のお守りとなるのです。